

---

# 真・恋姫無双 ～愛する者を包む空～

雪歩

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真・恋姫無双 ～愛する者を包む空～

### 【Nコード】

N9203Y

### 【作者名】

雪歩

### 【あらすじ】

櫻井夜空は天才だった。故に恨みを買ひ、親によって殺される。

たどり着いた先は恋姫の世界だった……

初投稿です。



一話 夜空の不幸〜前編〜(前書き)

明日からといいながらw

一話 夜空の不幸〜前編〜

櫻井夜空は天才だった。顔は女顔だったが、運動もでき、頭もよかった。そんな彼の周りにはいつも友人たちがいいた。そして彼女もいた。順風満帆の生活をおくっていた。しかし、それは一つの事件によったった。

side 少年

彼もかつて天才と呼ばれたことがあった。テストで1位はあたりまえ。そんな彼が天才などと呼ばれるのは時間の問題だったのだろう。しかし、高校にはいると彼以上の天才がいた。そう、夜空だ。高校に入ってから彼は一度も1位になることができなかった。そう、まぎれもなく夜空のせいで・・・妬みは募るばかりだった。

一話 夜空の不幸〜前編〜（後書き）

話によって長さにはらつきがでそうです。pspだとながさに  
しかできないw  
感想待ってます！

二話 夜空の不幸〜中編〜(前書き)

本日2話目。まあ、すげえ短いんですけどねw

## 二話 夜空の不幸〜中編〜

side少年

彼がそんなことを考えていると、何の因果か赤信号で止まっている夜空がいた。

「彼奴さえいなければ。」「そうだ、殺す、殺せばいいんだ!」

彼は夜空へと走っていった。そして大量の車が走る道路へと突き飛ばした。

「なっ!」

夜空はとっさに反応したがもう遅かった。もう夜空の目の前に車が迫っていたのだから・・・

「ふふ・・・はははははははは!!死んじやったよ彼奴!ざまあねえよ?はははははははは!」

そんな声が騒然となったその場に響いていた・・・



二話 夜空の不幸（中編）（後書き）

なんか展開早いか？ちなみにまだ夜空君は死んでませんよ？後編は転生するまで一気にかくかも？

感想をくれると作者は死ぬほど喜びますw

まだ感想もくそもないですが。

あ、ヒロインをまだ決めてないので、そういう要望も待ってます！

### 三話 夜空の不幸〜後編〜(前書き)

えっと、またpspからなのですぐくよみにくいかもしれません。  
明日修正します。

### 三話 夜空の不幸〜後編〜

結果からいえば夜空は生きていた。完全に奇跡としか言いようがないが。

しかし、無事だったわけではなかった。下半身不随、顔への大きな傷、そしてひどくはないが若干の知能傷害が残った。

はじめは友人たちが見舞いにきていた。しかし、夜空の容態を知るとその数は減っていった。そして彼女すらこなくなった。そう、彼らは顔が整っていて、スポーツ万能な優等生な夜空にしか興味がなかったのだ。

それよりも大変なのは母だった。夜空の父は数年前になくなっていて、女手一つで育ててきたのだった。そして、入院費などでもう母は限界に近かった。

そしてある日、母が夜空を車イスで連れ出した。

そして階段にさしかかった時、母はなにを思ったか、車イスごと夜空を突き飛ばした。落ちているとき夜空は母の口をずっと見ていた。その口はこう動いていた。

(ごめんね)

と。こうして櫻井夜空は一度目の生涯を閉じた。そ

う、一度目の……

三話 夜空の不幸〜後編〜（後書き）

やっと死にましたね（おいw次は神様がでてきます。多分。

誤字の報告や感想待ってます！

#### 4話 く管理者との邂逅（前書き）

お気に入り登録が二件もあってすごくうれしいです！

神様が出るとかいいながら管理者出してしまいましたw

それではどうぞ！

そういえば主人公が初めてしゃべりますw

#### 4話 く管理者との邂逅

夜空      side

「ここは……」

たしか俺は病院の階段から突き落とされて……  
あたりを見回してみるとそこは真っ白な空間だった。

「どこなんだここは」

「端的に言えば死後の世界だよ」

声のした方向を見ると髪の長い背の小さな女の子が立っていた。

「あなたは誰なんだ？」

「外史の管理者の詩菜っていうんだ。」

「外史？」

「簡単に言ってしまうえばあなたがいた世界とはまた別の世界よ。」

もうひとつの世界ねえ……

「で、その管理者が俺に何のようだ」

「もう現世で死んだあなたに外史に転生してもらおうと思って

ね

「転生？」

「その世界で新たな人物として生きてもらうの」

また、生きるチャンスがめぐって来たってことか。  
新しい人生を歩みなおすってのもありかな……

「それで転生してくれ」「ああ、いいぞ」……はいわね。  
……。

そんな簡単に決めていいの？また同じような人生になってしまいかもしいのよ？」

「まあ、そうかもしれないが、違う人生を歩めるかもしれないだろ？」

「そう、あなたがそういうのなら止めはしないわ」

……そういやどんな世界に行くのだろうか。

「なあ」

「ん？」

「俺はどんな世界に行くんだ？」

「中国の後漢末期よ。あなたの知っている世界とは少し違うけれど」

三国志ねえ……

面白そうじゃねえか！

「ああ、あなたの身体能力とかの戦闘に関する能力の上限はほぼないと考えていいわ」

「どこまで強くなれる？」

「呂布くらいなら努力しだいで超えられるわ」

それならそっちでできた家族も守れるな。

「ありがとう」

「別に感謝されることではないわ。では目をつぶって。早速転生させるわ」

「こうして俺は転生した。まぶたの向こうで怪しげな笑みを浮かべる詩菜に気づかぬまま・・・」



#### 4話 く管理者との邂逅（後書き）

伏線張ったけど回収できるのかw

とりあえずそのうち主人公は拾われることになりますw

その先が誰の家族がいいか感想に書いてくれるとうれしいです。

特にならない場合は、明命ちゃんの家には拾われると思いますw

それでは！

## 5話 　　く新たな家族と・・・く

目をあけると見慣れぬ天井が視界を覆っていた。転生とはこんなにあっけないものなのかと思っていると、

「おはよう、夜空！」

そんな声がすぐ近くから聞こえてきた。名前は変わってないらしい。これも詩菜が介入したのだろうか。

彼女が俺の母らしい。白銀の髪美しい女性だった

「おはよう、夜空。」

「あら、おはようあなた。」

視界に入ったのは俺の顔をのぞき込んできた、燃えるような赤い髪をしたこれまた美男だった。

前世でもこれほどの美男美女はなかなか見なかった。

「あ～～あ～～。」

言葉を発そうとしてみるが、思い描いた言葉は夜空の口からはでなかった。

（そついや転生したんだな。まさか赤ん坊からはじまるとはな・・・）

「やっぱりお前に似てかわいい顔してるじゃないか。」

「いえいえ、あなたに似て美男じゃないですか。」

「そうか？お前のきれいな銀の髪を持つてるじゃないか。」

「あら、本当ね。この子私たちのいいところが全部詰まってるんじゃないかしら。」

さつきから何なんだろうかこの夫婦。これがバカップルなのか。はじめてみただ。

先ほどのような会話が30分ほど続いた後、

「さて、そろそろ出かけるか。」

「？あ～～あうあうあ～～」

まあ伝わる分けないと思うけどね。むしろ伝わったらこわいしね。父と母はそんな俺を連れて家から出た。

「久しぶりだな、町まで出るのは」

「そうですね。夜空がいたからなかなか遠出はできなかったからね。」

「そうだな。」

「しっかりといい子に育てましようね。」

「ああ、当然！俺とお前の子だしな。」

母が頬を染めた。仲いいなこの夫婦。

1時間ほど歩いたとき、

「あーあうあうあー（腹減ったー）」

思わず声に出してしまった。起きてから何も食べてなかったな。

「今お乳をあげますよ。」

ふと思ったがこの展開は結構屈辱だな……

「あなた、少し離れてもいいですか？」

「ん？ああ、わかった」

なんだか恥ずかしいらしい。夫婦だから気にすることでもないと思うんだけどな。

茂みで母さんはご飯の準備を始めた。

「はい……夜空。あーん。」

へえへえ覚悟はしてましたよ。あーん。

「俺たちももらっていいか？」

と、父さん以外の男の声が聞こえた。

そこにはいかにも賊といった格好をした男がいた。腰には剣が。

「誰ですか、あなたは？」

さっきまでの笑みはない母さんは真剣な顔でたずねた。

「名前なんてどうでもいいんだよ。」

「それはそうですね。失礼します。夫が待っているのです。」

そういった母さんは急ぎ足で離れようとするが、

「さて、餓鬼の次は俺の相手をしろよ。」

そういつて男は母さんの腕をつかんだ。  
そのせいでおれは地面に落ちた。

「あううー!! (いてえ!!!)」

いつてえな、おい!

あ、母さんは!?

「いい女だな・・・あんだ。」

「いや!! やめて!!!!」

男は母さんに馬乗りになっていた。

「あうーあうあうあうあー!! あうあう!!!! (やめるこのブ男  
! そのてを離せ!)」

「うるせえ餓鬼だ。楽しんだ後殺してやるよ。」

「誰が何だつて?」

「っ!?!」

いつの間にか近くに父さんがいた。

「あなた!!」

「夜空の声が聞こえてね。きてよかったよ。」



「待て、そいつは俺が殺すって決めていたんだ俺がやる。だから女を抑えてろ。先にやってもいいぞ」

男は俺に近づくと腰にある剣を鞘から抜き俺に振り下ろした。  
俺の人生はここで終わりか……あっけない……

「おい!!!何で抑えてなかった!!!」

「悪い、少し油断していた!」

男の会話が聞こえたので目を開けてみるとそこには……

「大丈夫だよ……夜空。」

母さんが俺に覆いかぶさって盾になってくれていた。

「大丈夫……もうすぐ終わるから泣かないで……夜空。」

口から血を流しながらも、いつも俺をあやす時みたいに優しい声で話してくれる。

「せっかくのおんなだったのにもつたいねえ。」

どうして……どうして母さんや父さんが死なないといけないんだ……  
どうして!

「大丈夫……大丈夫だからね。」



目を閉じたかったけど閉じれなかった。  
最後まで母さんの姿を見ていたかった。

「しょうがない。荷物掻っ攫って逃げるか。」

「そうだな。さっさと逃げ」「どこに逃げる?」「何?」

声の方に向くとそこには剣を持った女性が立っていた。

「何だてめえは?」

「貴様等がここにいる人達を殺したのか。」

「そうだが。それがどうかしたのか?」

「そうか……なら……」

女性は一瞬で男達との距離を詰め……

「死ぬ。」

「へっ」「

女性は剣を使い男達の首を一瞬で刎ねた。

女性はまだ母さんが生きていたの分かったのかこちらに近づいてきた。

「すまない。もう少し速く気が付いたらこんな事には……」

「いえ、ありがとうございます。夫の仇を取ってくれて。この子に憎しみを持たせたくありませんでしたから。」

そう言っつて母さんは優しく俺を撫でた。

「あのお願ひがあります。」

「何だ。言っつてくれ。」

母さんは俺を女性に渡した。

「この子をあなたが育ててくれませんか？」

女性はそれを聞いて驚いたが……

「わかつた。私が責任を持つて育てましょう。」

「ありがとうございます。この子の真名は夜空。よろしく願ひします。」

母さんはまた俺を撫でながら……

「ごめんね……もつと一緒に居たかつたけど……母さんもう駄目みたい。」

そんな……そんな事言っつなよ。一生のお別れみたいじゃないか。

「夜空……立派に育つて……そして幸せになつてね。」

そう言っつと母さんの手は俺の頭から離れていっつた……



5話 　　く新たな家族と・・・く（後書き）

当初の予定道理ですが

こういうのは書いててつらい・・・

さて拾われ先どうしようw

要望がある人はどうぞ申してくださいw

感想、アドバイス、要望待ってます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9203y/>

---

真・恋姫無双 ～愛する者を包む空～

2011年12月4日00時49分発行